

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300596		
法人名	有限会社 ゼロズ		
事業所名	グループホーム ほほえみ I		
所在地	津山市下高倉西549-43		
自己評価作成日	平成 27年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvsoCd=3370300596-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvsoCd=3370300596-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成27年10月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人ひとりが今まで培って来られた人生の豊かさをしっかりと発揮して頂けるように、思いや能力を引きだして充実した日々を過ごされることを支援している。  
毎月目標とする行事を計画し、それに向けて毎日のアクティビティで練習し、本番で成果を発揮する取り組みを続けている。職員と入所者がひとつになり、楽しみ、達成感を味わうことができる。  
生活全般に渡り、介護が必要になられた方も増えており、食事摂取については個別にきめ細かい対応を行っている。心疾患や腎臓病食も対応し、食事形態は多岐にわたるが、それぞれに美味しく楽しい食事ができている。表情が生き生きとして来られたことをご家族ととも喜びあえるのが嬉しい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津山市街地より東北寄りの、この下高倉西地域にグループホームを2000年に設立して以来、数多くの高齢者の安心・安全、そして満足のいく日々を支えてきた。その源の一つは当初より「食べる事を大切に」というホームの方針によるものだろう。食につながる仕事は利用者の暮らしの中でリハビリとなり、個別対応の徹底した美味しい食事は、何よりの楽しみでもある。次に注目すべき点は「高齢になっても、不自由な事が多少あっても、日々生き生きと暮らしていただく」という職員の熱意と思う。今日のリビングでも、利用者の皆さんの元気と笑顔一杯のアクティビティは年齢を忘れさせる程だった。もちろん仲間に入れない利用者への配慮も有り、全職員の息の合ったサポートからは「認知症の人も、他の問題を抱えている人も、心を開いて対等に生きていこう」とする姿勢がひしひしと伝わってきた。身体的ケアは当然の事だが、心のケアに力を入れているすばらしいホームと感じた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は詰所に掲示し、ケア検討においても理念に基づいたケアのあり方を考え、実践している。	利用者一人ひとりが主役となり、自分の思いをしっかりと表現できる暮らしの実現に向けて、職員は「その人らしい生活」を支援していこうと日々努力している。利用者や職員間で話し合っって行事やレク等を創意工夫しながら、毎年新しい取り組みにチャレンジしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高倉小学校に毎月ニュースレターを届け学校に掲示して下さっている。児童の訪問で演奏や触れ合いは恒例となっている 夏にはひまわり 冬には葉ボタンを届けてくださる。	ホームの近所の畑の持ち主との交流や自分の畑で採れた野菜を持ってきてくれる人もいる。「ゆうやけ市」で野菜の購入をする等、地域に密着した生活が定着している。また、近隣の小学校の運動会の見学に行く等、日頃から地域との交流も図られている。	利用者の高齢化も進んでいて地域へ出掛けて行つての交流がなかなか難しい状況になっているので、地域のボランティアを運営推進会議等で提案して捜してみる等、ホームへの出入りを今以上に増やしても良いのではないかと。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が訪問してくださり、生活を見ていただく機会があり、理解し、評価もして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、運営状況の報告やテーマを決めて発表をし、意見交換をしている。運営推進委員の方々もアクティビティに参加される。	毎回、市の担当者の参加もあり、地域の推進委員のメンバーと一緒に活動報告や協議事項等を話し合っている。8月の会議では「ひやりハット」の集計をし、詳細な記録を添付して報告、参加者と意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報をお互いに共有し、必要な時は相談に乗って頂ける。手話通訳者や保健士など専門職の協力も得られる。	身体に障害のある利用者のケア方法等を市の担当者や専門職に相談し助言や指導をもらっている。市主催の研修会に職員が参加する等、日頃から連携を図り、市の担当者も運営推進会議に出席してホームの実情をよく理解してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準を理解している。口調や表情にも気をつけている。ヒヤリハットを記録し、皆で検討対応し拘束しないケアにつなげている。	玄関の施錠はなく出入り自由だが、今のところ帰宅希望の人や一人で外に出て行く人はいない。外に出たい人には職員と一緒に散歩やドライブをして気分転換をもらっている。日頃から「身体拘束・言葉による拘束」の研修をして職員間で周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに気をつけ合い、利用者様が「なぜ?」「なぜそのような?」という解決困難事例は共有して、ストレスにならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしているが、ケースは経験していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書・重要説明事項・個人情報・医療連携加算・社会生活で丁寧に説明し、理解・納得を得て契約を行っている。制度改正の都度説明と同意を文書で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との会話の中でご家族の思いや要望と思われることを共有メモに記録し、スタッフ全員が目を通し、スタッフ内で共有しケアに取り入れている。	毎月発行しているニュースレター「ほほえみ」には日々の生活の様子を写真で掲載し、利用者個々の状況報告を添付している。家族の訪問時に話し合ったり、電話等で連絡を取り合い要望を聞いている。時には家族から手紙をもらう事もある。また、介護相談員の来訪もあり本人・家族から相談できる体制作りをしている。	各々の家族とは色々な場面や方法でコミュニケーションをとったり、たより等でも情報提供ができていますが、運営推進会議への家族の参加を促したり「家族会」等の計画も考慮して横の連携も取り合えるようにしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のスタッフ会議でケアの検討は行っているがそれだけに限らず、何でもノートを利用し全員が意見や感想を交換し共有している。	毎月ケースカンファレンスをして職員間で意見交換をし、日々の気づきや申し送りをノートに記載して情報共有している。食事面の改善等、意見や提案があれば職員間で話し合っている。勤務年数の長い職員も多く、職員同士のコミュニケーションもよくとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調に配慮し、個々の勤務希望等体調・家庭環境に応じた労働時間・条件で対応している。職員間で負担がかからないようお互いに協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が勤務として研修に参加し、内容を持ち帰って全員で共有し、実践に生かしている。働きながら資格を取り、自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア専門士会や、外部研修参加でより専門性を求めた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特にゆっくり会話の時間をとり、ご本人の言葉・表情から気持ちを汲み取り、スタッフ全員で細かな情報も共有し職員が信頼できる存在であると感じて頂ける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での様子をよくお聞きし、ホームに託していただくご家族の気持ちをしっかり受け止め、ご家族の気持ちのケアも心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のケアプランをしっかりと作り、ご家族からの情報も考慮し、まずは安心感を第一にその方の自立を支援できるケアを考えている。リスクの把握が初期では大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりとコミュニケーションをとり、信頼関係を築き、できる事を一緒に頂くことで、皆の役に立っているという充実感を感じ、お互いが感謝の気持を表わせる場面を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	182号になるニュースレターをご家族も楽しみにしておられる声を頂く。ご家族が電話でご本人に対応して下さい、寂しさを和らげて頂くこともある。本人の希望をご家族とも話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご親戚やお友達など ご本人が希望される電話や手紙のやり取りなど交流が続けられる支援を行っている。訪問時もゆっくり過ごして頂けるように配慮している。	家族の訪問も多く、墓参りや法事への参加等、家族と一緒に外出する機会もあり、職員も個別の外出支援をしている。中には夫婦共通の友人が面会に来てくれる人もいて馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い空間になるように、席の配置に気をつけている。支援が必要な方は職員が、同席し手話を交えた会話も成り立つ。家事やレクリエーションでは協力し合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに伺ったり、看送った方のご家族が懐かしく訪問して下さり思い出を語りあう。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔話や思い出、日常会話などからお一人お一人の思いを汲み取り、日ごろの生活支援に生かしている。ご本人の気持ちを推察してご家族と相談して対応している。	職員は日頃から利用者との会話を心がけ、気づいた事やエピソードをメモにとって「なんでもノート」に記入し職員間で共有している。その人の思いや希望は「私の歩んだ人生」の冊子からも読み取れる。全員の冊子作成に取り組んでいるところである。	本人の思いや希望に添える暮らしの実現の為に始めた「自分史作り」は今後も継続して欲しいが、その為の資料ともなるはずのフェイスシートや入居後のトピックス的なファイルを工夫して職員間の情報共有に役立てて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の暮らしシートをご家族にお願いし、ご本人の生活歴や大切にされていることをできるだけ把握している。ご本人からも日常的にエピソードをお聞きし、職員間でも共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況の観察、個々の生活のリズム、気分の変動を把握し、そのなかで生活を楽しむことが出来る全員レクリエーションと個別レクリエーションを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の気持ちの尊重 ご家族の意向をお聞きし、ケア検討会議で検討・確認しチーム全体で取り組んでいる。日々の変化についても必要な検討はその都度行い、共有している。	利用者の担当制を敷いており、状況をよく把握している担当者が中心となり計画作成担当者や職員間でカンファレンス、モニタリングをしてケアプランを作成している。更新時やプラン変更が必要な時には家族も参加してサービス担当者会議で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその方が発せられた言葉を記録したり、日頃と違う点を注意している。体調や薬などの重要な事は、簡潔に判り易く記録し、共有を確実にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度の重度化やご家族の状況などを考慮して個々の必要とされていることを援助することで出来るだけホームでの穏やかな生活が続くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流、近所の方々との交流、買い物、気晴らし外出、季節を感じる外出、行事の参加など楽しんでいる。野菜作りや花を植えたり季節が感じられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じた医療が受けられるように、事前にご家族の要望を聞き、各医療分野と連携し受診支援をしている。	利用者は全員、協力医療機関の医師が主治医であり緊急時等の対応を含め、連携体制が万全で安心して生活出来る。日頃から看護師資格のある職員が利用者の健康維持管理をしており、1か月に1回の訪問歯科で口腔衛生にも気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした変化や気づきを職員間で相談し、医療機関に連絡し、支持を仰ぎ適切な対応ができる。 職場内の看護師・訪問看護師・往診が有効に機能している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時にはホームでの入院に至るまでの状態を詳しく伝えている。病院関係者との関係は良好で入院中も、見舞いに行きご本人が安心できる支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携と看取りに関する指針を説明し、ホームでできることとできないことの説明と、終末期については延命治療等についても、その都度話し合い、方針を確認している。	開設以来、看取りの経験は数多くしてきた。現在もターミナル期の人がいるが、協力医療機関・家族等と連携を取りながら支援している。入所後、短期間で看取った人の家族から「ここに来て良かった」と感謝され、嬉しい思いをすると共に職員の励みにもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の急な増悪で救急車を要請することもある。そういう事態発生時に適切に対処できるようにシミュレーションを行っている。実際の対応について全員で評価を行い、より実践に役立つ対応を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。緊急災害警報時の訓練も行う。聾啞の方にも手話で誘導できるように訓練している。 地震などの災害はご家族の支援をお願いする地域の防災連絡にも参加している。	初期消火・通報・救援要請・避難誘導等の訓練を利用者と一緒に行っている。災害時、固定電話が不通になる場合等の非常時に備え携帯電話回線を開設し連絡体制を強化した。今後は消防署に立ち会ってもらう機会を検討してみるのも良い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保一人ひとりの人格を尊重している。性格、入所期間等により、スタッフとの距離感も異なることを考慮して対応している。	夫婦で入所している利用者にはユニット・居室を別々にして個々のプライベートな時間を大切にしている。利用者にかかる職員の言葉使いにも一人ひとりを大切に、配慮を欠かさない日頃の取り組みを感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりとした気分で雑談をしながらも思いを引き出し受け止めている。希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、また、それぞれの体調もあることから、無理なく気持ちが動くような声かけをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前で整容し、季節や気温に合った服を用意し、行事の時にはいつもよりおしゃれな装いや化粧をして楽しんでいる。髪形などご本人の希望を大切に、整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話から何がお好きか何が食べたいかお聞きしメニューに入れている。下準備や下膳、膳拭き等できること、できていると感じていただける支援をしている。職員が見守りや補助を行なっている。	利用者の「美味しくいただいておりますよ」の言葉が頷ける程、旬の野菜を使った3食共手作りの食事はとても美味しい。個々の食事形態にも配慮しながら利用者と一緒に食事をしている。「水菜の料理方法」を話し合う利用者達と職員の楽しい会話も聞こえてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓疾患・糖尿病・心疾患等の病状に応じ、医師の指示に添った食事を用意し、摂食・嚥下状態に応じた、食事形態・栄養補助食品等、多岐にわたる支援を行っている。水分ゼリーは有用である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ、歯磨きの声かけ、確認、介助、口腔清拭等の口腔ケアを行っている。歯科受診 往診もあり口腔ケアの指示も受けている。個々にあった用具を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じてトイレの誘導を行い、自立を支援しつつ困った時は職員がすぐにサポートできるように見守りを行っている。介助を好まれない方は少し間をおいて受け入れて下さる機会を見図る。	排泄の自立の人、布パンツの人、リハビリパンツにパットの人等、個々の状態に合わせて排泄チェック表をもとに適宜職員は支援している。職員間で話し合いそれぞれの人に適切なパットの検討もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜、乳製品の摂取を個々の好み、状態に応じて便秘の予防を行っている。それで改善しない場合は医療連携で適切な便秘薬の処方を受け便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の気持ちを大切に、希望に応じて入浴でき、拒否がある場合は気持ちよく入浴して頂けるように声かけを行い、無理せず日の変更も行う。	週3回以上の入浴を目標にしており、重度化した人や車椅子の人等には、清拭・シャワー浴・二人介助等で個々の状態に合わせて入浴してもらっている。入浴拒否の人はいないが、気分や体調の変化がある時には無理強いせず時間や声かけを工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休息時間は個々に応じて入床誘導している。室温の調節も気をつけて安眠できる環境を創っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・飲み忘れの無いように1日分ずつ日付をいれて保管し与薬の責任を明確にしている。薬の目的・用法など全員が確認できるように薬情報や記録をまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の体操は毎日行い、続くレクリエーションは目標に向かって練習をしている。継続と達成感を大切にしている。個別には塗り絵や手芸などを準備し、楽しんで頂いている。夕方は体操と歌で口腔体操もする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で外出できる方は限られたきたが、希望の買い物に出かけたり、ドライブなど楽しんで頂いている。全員の方には中庭や近隣の散策など季節を感じ、地域と触れ合う時間を大切にしている。	以前より高齢化・重度化が進み季節ごとの行楽等への集団外出は難しくなってきたが、家族と外食に出かけたり自宅に帰る人もいて、個別の外出支援にも力を入れている。ホーム周辺の散歩や畑の収穫の手伝い等、出来る限り外に出る機会を作っている。	日常的な外出が個々の利用者の状況もあってチャンスがなかなか得られないが、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係継続の支援の意味も含めて可能な家族にはより一層の外出支援をお願いして欲しい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望され、可能な方はご自分で管理して使用されている。ご自分で管理されていない方にはご家族からお預かりしているお金で希望の物品が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人と手紙のやり取りをされている方もある。投函は職員が支援している。電話は番号間違いのないように気をつけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる配慮をしている。作品も最新のものを掲示している。明りや音には気をつけ、特に職員の足音など慌ただしさを感じないよう配慮している。	両ユニットの間にはウッドデッキがあり天気の良い日にはお茶を飲んだり、日光浴・外気浴等を楽しんでいる。リビングにはドレスアップした利用者の写真が展示してあり、その生き生きとした表情や笑顔から日頃のここでの楽しい生活が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りなれた自分の場所で気の合う方と共通の趣味を楽しんでおられる。いつものソファの席で過ごされる方、他のソファでは足を延ばして横になり寛がれる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が用意された物や、ホームの備品などで居心地の良い空間になる様にしている。ご本人の状態によっては、安全を第一に環境を整える場合もある。	1棟と2棟では建築様式が異なり居室の趣きが違うが、どちらも明るく清潔感がありつろげる空間になっている。自分で描いた油絵を飾っている人、手芸作品を飾っている人、家族の写真に囲まれている人等、それぞれの個性が滲み出るような落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮して環境を整備している。目印になるものを分かりやすく、なおかつ目障りにならないように配置している。ハード面だけでなく介助者もご本人の力が発揮できる介助方法を職員間で検討し実践している。		